

仏様のおはなし新シリーズ第72集 その1 「浄土真宗の救いの喜び」

阿弥陀如来の本願は かならず救うまかせよと
南無阿弥陀仏のみ名となり たえず私によびかけます

この言葉で始まるお言葉は「拝読浄土真宗のみ教え」の中の「浄土真宗の救いの喜び」から戴きました。この言葉を戴きます時、仏さまは常に「かならず救う我にまかせよ」と呼びかけて下さる仏様の声の中にいます。

私の父は職業軍人でしたが、七十年前に終わった先の大戦で亡くなりました。私は父の死のひと月後にこの世に生を受けました。当然、父には一度もあつていませんが、数少なく残るセピア色の写真だけが父との接点です。

恐らく、戦後七十年の今年、戦争で身内を亡くされた多くの方々が、悲しみを新たに涙しておられるのではないかと、自らの父をしのびながら思っています。

父はきつとお浄土で仏となつて、今でも私に寄り添つてくれていると信じますとき、一度も会わなかった父ではありませんがありがたいことです。

阿弥陀如来は、「すべての迷い苦しむものを救わずにはおかない」という願いをたてて修行され、その完成した願いを南無阿弥陀仏のころとして私たちにめぐんで下さいました。

これからも、そこに込められた「まことのころろ」を聞き開く日々を改めて感謝しながらすごしたいと願っています。

